

福島第一・福島第二原子力発電所における平成23年東北地方太平洋沖地震時に取得された地震観測記録の分析に係わる報告（概要）

平成23年5月16日
東京電力株式会社

当社は、今回の地震時に取得された地震観測記録の分析を進めているところであるが、このたび本震の際に取得された観測記録のうち、現時点で加速度時刻歴データが得られている各観測点の記録の整理が完了したことから、報告するものである。

報告の概要を以下に示す。

1. 福島第一・福島第二原子力発電所における地震観測の状況

福島第一・福島第二原子力発電所では、敷地地盤、各号機の原子炉建屋及びタービン建屋、並びに地震観測室に地震計を設置し観測を行っている。
福島第一原子力発電所では、計53箇所に、福島第二原子力発電所では、計43箇所に地震計を設置している。

2. 東北地方太平洋沖地震における観測記録

東北地方太平洋沖地震本震の際に取得している観測記録のうち、原子炉建屋基礎版上（最地下階）で得られた最大加速度値を表に示す。これによると、一部で耐震設計査定指針の改訂を踏まえて策定した基準地盤動Ssに対する最大応答加速度値を上回っている。福島第一原子力発電所の自由地盤系南地盤及び北地盤地盤観測点の解放基盤相当位置(O.P.-200m)の地中での加速度時刻歴波形を図2-1に、応答スペクトルを図2-2に示す。同様に福島第二原子力発電所の自由地盤系地震観測点の解放基盤相当位置(O.P.-200m)の地中での観測記録を図2-3、図2-4に示す。

また、福島第一原子力発電所1号機～6号機及び福島第二原子力発電所1号機～4号機の原子炉建屋基礎版上で取得している加速度時刻歴波形を図3-1～3-10に、応答スペクトルを基準地盤動Ssを入力して算定した応答スペクトルと併せて図4-1～4-10に示す。図4-1～4-10によると、観測記録の応答スペクトルが一部の周期帯において基準地盤動Ssによる応答スペクトルを上回っているもの、概ね同程度となっている。

なお、福島第一原子力発電所では、53箇所の地震計のうち29箇所で、福島第二原子力発電所では、43箇所の全てで加速度時刻歴データが得られており、加速度時刻歴波形の確認を行ったところ、福島第一原子力発電所では7箇所、福島第二原子力発電所では11箇所の観測点において130～150秒程度で記録が中断していることが判明した。

しかしながら、近接する観測点との比較によると最大加速度値及び応答スペクトルはいずれも概ね同程度となっていること、また、地盤で完全な記録が得られていることから、今回の事象は今後の検討において大きな問題となるものではないと考えている。

今回の事象の原因を調査した結果、地震計のデータを記録する装置のソフトウェア上に不具合が存在することが判明したことから、今後、当社が保有する当該装置と同機種の装置を対象としてソフトウェアの更新を実施するとともに、他の原子力事業者へ注意喚起するため、原子力施設情報公開プライバリー「ニューシア」へ今回の事象を登録する予定である。

3. まとめ

現時点で取得できている東北地方太平洋沖地震本震の加速度時刻歴データを整理した。今後も引き続き、本震及び余震の記録の収集、整理に努めるとともに、収集した観測記録の分析及び施設の影響評価を実施していく。

表 東北地方太平洋沖地震に対する応答値との比較
観測記録と基準地盤動Ssに対する応答値との比較

観測点 (原子炉建屋基礎版上)	観測記録				基準地盤動Ssに対する 最大応答加速度値(ガル)
	NS 方向	EW 方向	UD 方向	NS 方向	
福島第一	1号機	460*	447**	258*	487
	2号機	348*	550*	302*	411
	3号機	322*	507*	231*	438
	4号機	281*	319*	200*	441
	5号機	311*	548*	256*	445
	6号機	298*	444*	244	452
福島第二	1号機	254	230*	305	434
	2号機	243	196*	232*	428
	3号機	277*	216*	208*	430
	4号機	210*	205*	288*	415

*記録開始から130～150秒程度で記録が中断している。